SHOIN

Dreams lead to success

一般社団法人SHOIN

Origin of name

一般社団法人
SHOIN

松陰…学問とは、人間はいかに生きていくべきかを学ぶものだ
勝因…困難に勝つために必要な経験と仲間に出会う

Mission

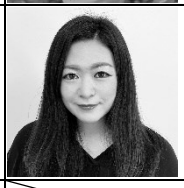
全ての子ども達のために

子ども達が、心身共に健全で、自らの将来の視野を広げながら成長していくために活動することを目的とします。

History

2017年	10月	子ども達の居場所づくり実行委員会として活動をスタートさせる
2018年	1月	こども食堂あゆみを北区東十条の社会福祉法人あゆみにてスタートさせる
2018年	7月	夏休みこども農業体験を千葉県大網白里市にてスタートさせる
2019年	11月	北区社会福祉協議会と共催でキャリア学習職業体験をスタートさせる
2020年	3月	フードパントリーららを北区神谷のファミーレららにてスタートさせる
2021年	4月	一般社団法人 SHOIN として法人化する
2021年	7月	アウトリーチ型支援事業(訪問)をスタートさせる
2022年	4月	北区王子本町に事務所を構える

Member

	代表理事 吉原　隆平 吉原隆平綜合法律事務所・弁護士 「愛とは何か」をテーマに活動しています。		理事　小池　一博 ㈱ヴィルトゥススポーツクラブ・指導者 子ども達のため全力で取り組む！
	理事　細野　晃生 ㈱エクセル保険・保険代理業 無理せず自分らしく活動します。塵も積もれば山となる。		監事　吉羽　恵介 吉羽税理士事務所・税理士 同世代の仲間と活動する延長線上を地域貢献に。
	理事　田村　哲朗 ㈱エスティサービス・飲食店経営 みんなが笑顔で繋がる良い地域にしていきたい。		理事　瀧井　雅代 金融業 自ら行動しなければ何も変えられない。千里の道も一歩から。
	理事　若松　穣 ビジネスホテル 2 店舗運営 観光業の観点から皆が幸せで盛り上がる街づくりを。		

Projects

◆こども食堂あゆみ（2018.1 月～）

［開催日時］毎月第 2・4 水曜日 18:00～19:00(100 食なくなり次第終了)
［会場］社会福祉法人あゆみ(北区東十条 6-5-19)
［内容］子ども無料・大人 300 円／キッチンカーを活用し、テイクアウト形式と食堂形式の両方で実施しています。

◆フードパントリーららら（2020.3 月～）

［開催日時］毎月第 2・4 水曜日 18:00～20:30
［会場］一般社団法人 SHOIN 事務所(北区王子本町 2-15-19)
［内容］地域の食の中継地点として、企業から受け取った食品を登録者にお渡しします。

◆夏休みこども農業体験（2018.7 月～）

［開催日程］夏休み期間中
［会場］千葉県大網白里市 etc
［内容］様々な理由で遠出する機会の少ない子ども達と一緒に農業体験に行き、夏の思い出をつくります。

◆キャリア教育 北区で職業体験（2019.11 月～）

［開催日程］ 毎年 10 月か 11 月
［会場］順天中学校・高等学校
［内容］共催：北区社会福祉協議会、協力：東京青年会議所北区委員会／区内の子ども達が様々な仕事を体験する機会とします。

◆北区繋がり広がるプロジェクト（2021.7 月～）

［開催方法］月 1 回
［内容］訪問員(アウトリーチャー)が、支援を必要とする子ども達・家庭にプレゼントを持って行き、見守りや相談などを続けていくアウトリーチ型の活動です。

◆楽しく学ぼう！みんなの防災教室（2024.1 月～）

［開催方法］毎年 1 月
［内容］子ども食堂の地域連携力を活かしていきながら、避難場所認知や防災意識強化、地域連携強化を目的としたイベントです。

◆渋沢栄一「論語と算盤」検定（2021.3 月～）

［開催方法］年 2～3 回程
［内容］渋沢翁の考え方を知り、先の見えにくいこの時代を生き抜くための術を学び取る。

and more…

Project background

日本の子どもの７人に１人が貧困

・2019 年の厚生労働省の国民生活基礎調査によると貧困線は年収 127 万円で、日本の 18 歳未満の子ども達の貧困率は 13.5%で、約 7 人に 1 人が貧困となります(※1)。
「相対的貧困」…世帯所得が貧困線(等価可処分所得の中央値の半分)に満たない状態のこと
「絶対的貧困」…国や地域のレベルとは無関係に、生きること自体が困難なレベルで生活水準が低いこと
・「過去 1 年間で必要とする衣服が買えなかった経験があったか」の問いに、「よくあった」・「ときどきあった」・「まれにあった」を合わせた割合は、相対的貧困にある世帯は 45.8%となっています(※2)。

ひとり親世帯の約半数が相対的貧困

・ひとり親世帯の貧困率は 48.1%であり、ひとり親の約半数が貧困で苦しんでいることになります(※1)。

奪われる子ども達の様々な機会

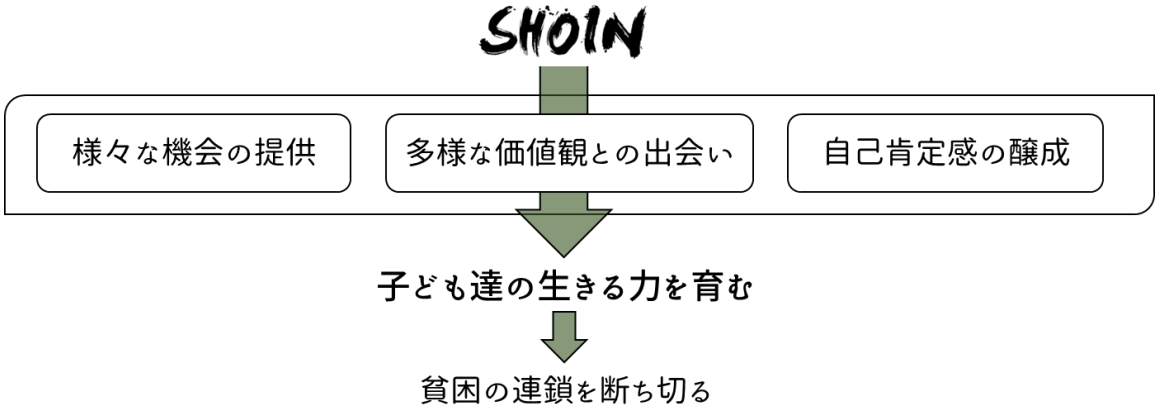
・子どもの進学の希望を「大学またはそれ以上」と考える割合は、相対的貧困にある世帯は、そうでない世帯が 50.1%であるのに対し、36.5%となっています(※2)。相対的貧困の中にある子どもは、経済的理由で進学や習い事を諦める場合が多く、機会を失ってきた子ども達もまた挑戦していく心が育まれない状況にあります。
・18 歳以下の日別自殺者は夏休み明けの 9 月 1 日に最も多くなっています(※3)。春休みやGWといった長期休暇明け直後に自殺者が増える傾向にあり、生活環境等が大きく変わる直前には子どもにとっては大きなプレッシャーになっています。

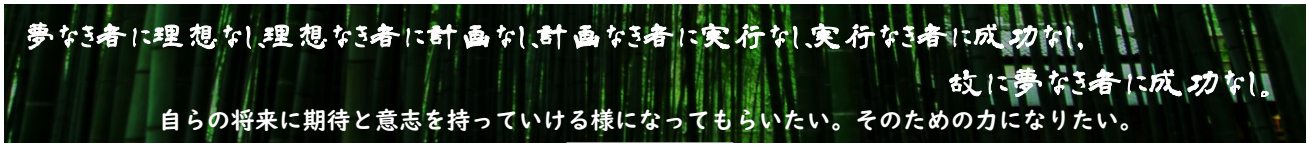
社会的な孤立

・重要な事柄の相談について「頼れる人がいない」と回答した割合は、相対的貧困にある家庭は 8.0%(全体 5%)となっていて(※2)、社会的に孤立している傾向にあります。

※1 厚生労働省「2019 年国民生活基礎調査の概況」
※2 内閣府「令和 3 年度子供の生活状況調査の分析報告書」
※3 内閣府「平成 27 年版自殺対策白書」より

我々は、様々な機会の提供・多様な価値観との出会い・自己肯定感の醸成へ寄与し、子ども達の生きる力を育む活動を行います。





アウトリーチ型支援と拠点型支援

なぜアウトリーチ型が大切なのか

　アウトリーチ型支援とは、支援をする側が、支援を必要とする子ども達・家庭に出向き、見守りや相談などを続けていくアウトリーチ型の支援活動です。・アウトリーチ型の支援の対象者は、支援が必要な状態であっても、助けを求める感覚が鈍化していたり、支援に関する情報を持っていない方が多くいます。

・コロナ禍を経て、子ども食堂やフードパントリーといった拠点型の支援では、子ども達の見守りは十分なものではなくなりました。これでは支援を届けたい子どもを待っていても出会うことはできません。

　　子ども食堂が開催できない　　子ども達と過ごす時間が少ない　　コロナ禍を経て来ない子も増えてきた

　そこで「アウトリーチ(訪問)型」の支援が必要と考えます。

それでも大切な拠点型の支援

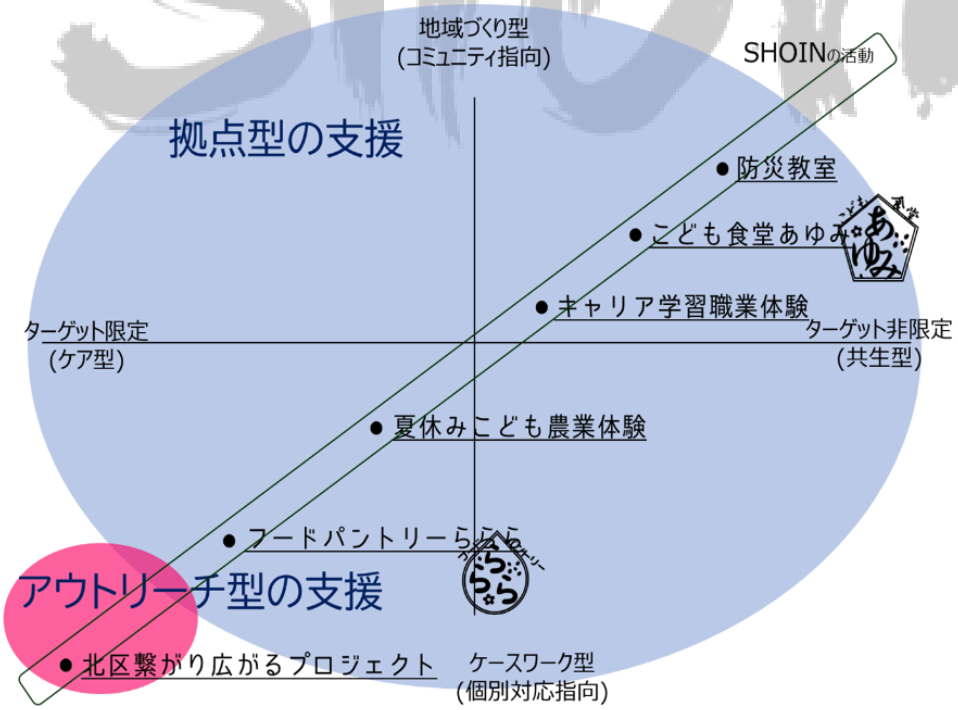
　アウトリーチ型の支援は大切ですが、支援をお届けする子ども達・家庭を把握できていなければ、アウトリーチ(訪問)を実行することはできません。

　子ども食堂やフードパントリー、学習支援、その他様々な体験活動などの拠点型の支援活動を継続しているからこそ、日々の子ども達や家庭の存在を知り、見守ることができるはずです。

　また拠点型の活動を継続する中で、他団体の子ども食堂や社会福祉協議会、民生・児童委員、学校、地域住民、行政機関などとの関係性から子ども達を把握することもできてきます。

だからこそ、様々な背景を持つ子どもや家庭の実情に合わせて、
拠点型・アウトリーチ型の両方の支援ができることが重要と考えています。

□SHOIN が実施するプロジェクトの位置づけ



　図は横軸をターゲット、縦軸を役割として、我々のプロジェクトの位置づけを表したものです。

　こども食堂あゆみは誰でも受け入れており、共生型の活動です。反対にフードパントリーららやコミュニティフリッジ王子本町は、ひとり親世帯や生活困窮者に限定しているので、ケア型の活動となります。夏休みこども農業体験は、夏休みに家族でお出掛けができない方を対象としているのでケア型寄り、キャリア学習職業体験は、子ども食堂や学習支援を利用する子ども達から一次募集するものの、広く募集をしているため共生型寄りといえます。

　　我々のミッションである「全ての子ども達に」届けるために、共生型からケア型まで点ではなく線になる活動を目指しています。ただこれらの活動は全て拠点型の支援であり、より貧困等対策で個別対応していこうと思うとアウトリーチ型の支援が必須となります。ここに北区繋がり広がるプロジェクトをはじめたきっかけがあります。

こども食堂あゆみ（拠点型支援）

ＳＨＯＩＮの原点

地域のために何ができるかを模索している中で、吉原が「子ども食堂をつくろう（著：豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク栗林知絵子）」を読み、東京都北区で子ども食堂スタートさせようと活動を始めました。

一般社団法人ＳＨＯＩＮの前身でもある任意団体の子ども達の居場所づくり実行委員会を 2017 年 10 月に設立し、子ども食堂を開始するためのヒト・モノ・カネ・情報について、多くの方々に助けられながら 2018 年 1 月からこれまで毎月第 2・4 水曜日で休まず開催しています。

コロナ禍でも諦めない

コロナ禍では、会場となる社会福祉法人あゆみが感染症対策のため使用できないなど、子ども食堂の開催は容易ではありませんでした。そういった中でも理事の飲食店を借りて実施したりと子ども食堂の居場所としての機能を維持していこうと必死になっていました。

2021 年 2 月からはキッチンカーを活用して、屋外でテイクアウト形式での子ども食堂開催にすることとし、飲食店で調理したものをスープジャーに入れて温かい夕食を提供することをはじめました。当初はテイクアウト形式が居場所としての役割を果たすのか心配な面もありましたが、安全安心を感じてコロナ前から通っていた子が戻ってくるなど良い面もたくさんありました。

ネットワークの好循環を目指す

北区内の子ども食堂も約 35 団体となりました。我々だけの子ども食堂だけ、認知度が高まったり、支援が集まったりでは子ども食堂は地域のインフラにはなりません。

そのために「北区子ども食堂ネットワーク」のシンボルロゴやホームページを作成するといったネットワークをより良くするための活動も、これまで積極的に行っていきました。

フードパントリーららら（拠点型支援）

食の中継地点として

新型コロナウイルス拡大の影響を受け、2020 年 3 月に政府が全国の小中高校の休校を要請したことにより、学校給食もない・子ども食堂にも行けずに食に困る子ども達が既にいたため、開催を検討していたフードパントリーを前倒しして開催することとしました。

今では、北区内のひとり親世帯や生活困窮家庭の約 55 世帯が事前登録制で利用されています。身近な食の中継地点としての役割だけでなく、運営者である我々と利用者が定期的に繋がっていくことで、相談なども増えており、社会的孤立を防ぐ役割も担っていると感じています。

北区フードパントリーネットワークの設立

子ども食堂同様にフードパントリーも北区社会福祉協議会が事務局になっていただき、北区フードパントリーネットワークを設立しました。我々が北区内で初のフードパントリーであったこともあり、小池が世話人という役割で定期的に情報共有や意見交換する場を設けています。

たくさんの方に支えられて

子ども食堂もフードパントリーもたくさんのボランティアの方に支えられて成り立っています。子ども食堂

をお手伝いしたいと連絡してくださり、継続してボランティアとしてお手伝いいただいております。また東京家政大学をはじめとする学生ボランティアも子ども達の素敵なおねえさん・おにいさんの存在になってくれています。

フードパントリーでは、毎回開催日にフードロスの観点から企業から集まった食料品を倉庫に取りに行くのですが、その役割も地域企業さんが担ってくださっていますし、なかなか手に入らないお野菜を毎回送ってくださる支援者・農家にも支えれております。

夏休みこども農業体験

子ども達に思い出を提供する

北区内の子ども食堂に通う子を対象に、年に 1 回夏休み期間中に農業体験を実施しています。夏休み後の 9 月に子ども達がなかなか学校に行けなくなってしまったり、自殺率が上がってしまったりといったことがあるため、子ども達に確かな思い出をつくってもらうこと、非日常の体験活動を通じて自己肯定感を得てもらうこと、新たな大人達と触れ合うことで多様な価値観を知ることを目的として行っています。

キャリア教育 北区で職業体験

お仕事・将来について考える機会をつくる

経済的困窮をはじめ、その周辺層の世帯収入の子ども達が困窮を原因として、進学やその先の職業の選択など将来の夢を描けない現状があります。その中には、そもそも周囲に自身が目標とできるようなロールモデルがいないなどの子どもがおり、「なりたい自分」を想像する機会が少ないこと、社会にはどのような仕事があるのか、その仕事に就くためにはどのような事が必要なのか知る機会が少ない事も原因となっていると考えます。

そこで、小学生の将来に対する夢の実現に向けた材料提供の一つとして、公益社団法人東京青年会議所北区委員会や東京商工会議所北支部に所属する様な地域企業の方々に講師となっていただき、子ども達が職業の一部を疑似体験することで、参加する子どもが将来を想像することができるきっかけとしていきます。

楽しく学ぼう！みんなの防災教室

子ども食堂×防災

子ども食堂は、既に学校や町会、自治体や社会福祉協議会、そして地域の企業・団体などとも連携しており、そこが「防災」という観点でも地域にとって重要な役割を担うことが、真の子ども食堂のインフラ化にも繋がることにもなってきます。

子ども食堂がコミュニティを醸成し・地域の防災意識を高める。その子ども食堂の安全性が災害時にも保たれている。そして、子ども食堂が災害時にも安全安心や食の提供を行えることができるはずです。

我々が運営しているこども食堂あゆみ付近の 3 校が統合し、都の北学園として新たに生まれ変わることもあり、ここ数年は避難場所が変化することから、避難場所の認知や防災意識強化、地域連携強化を目的としたイベントです。

アウトリーチ型支援の取り組み（民民連携）

北区繋がり広がるプロジェクト

Ⅰ）拠点型の支援を継続している方に、訪問員（アウトリーチャー）になっていただく

北区には「北区子ども食堂ネットワーク」があり、北区社会福祉協議会を事務局として、子ども食堂運営者がネットワークを形成しています。日頃よりネットワークとして活動している中で、心から信頼でき、拠点型の支援をしている子ども食堂運営者の方々に、一歩踏み込んでアウトリーチ型の支援が必要な子ども・家庭があれば、訪問員（アウトリーチャー）となってこのプロジェクトを一緒に進めていただきます。

［本プロジェクト協力団体］

COCORO ごはん
フィレールラビッツ浮間
子ども食堂キタクマ
てこら café
みんなの食事処きりのはな
ほっこり～の

Ⅱ）必要と思われる世帯に利用登録してもらう

支援対象者は、拠点型支援活動などによって出会った「アウトリーチ型支援が必要と思われる方」です。
現在のプロジェクトのフェーズとしては、あくまで訪問員と支援対象者が、拠点型支援の中で関係性があることが前提となります。

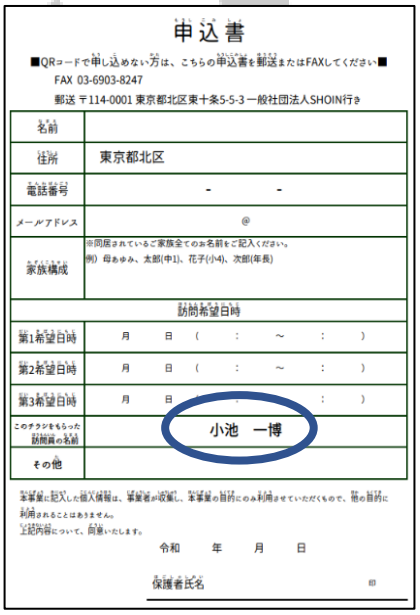
□「アウトリーチ型支援が必要と思われる方」とは？

◆孤独・孤立を感じている家庭　◆拠点型支援で支援を受けられなくなってしまった家庭
◆家庭環境に心配な面のある子ども達　◆ひきこもりや不登校などの子ども達　など

アウトリーチを必要している子ども・家庭に対して、訪問員がいきなり訪問して見守ることは難しく、訪問する理由づけが必要です。アウトリーチしたい家庭にお渡しするチラシは下記のような文章になっています。

～～コロナ禍が続く中いかがお過ごしでしょうか。訪問員がご家庭に月に１回プレゼントをお届けします。地域の繋がりが希薄と言われる昨今ですが、地域の子ども達と地域の大人達が顔の見える関係性となり、見守れる地域となれたらと思います。是非「北区繋がり広がるプロジェクト」をご利用ください。～～

□プロジェクトのチラシ



あなた個人の問題ではなく、社会課題を解決するためにこのプロジェクトを参加しませんか？と促します。

利用世帯にチラシをお渡しする時には、「このチラシをもらった訪問員の名前」の欄に、予め訪問員の名前を記載してからお渡しします。申込みはホームページからもできますが、誰でもいいというわけではなく、必要な方にアウトリーチ支援を届けます。

Ⅲ）プレゼントの準備

一世帯 1,000～1,500 円程度のプレゼントを準備し、訪問員の皆さんに届けます。
訪問員の皆さんは、プレゼントをお渡しする日時を利用世帯と調整して決定します。
また、このプレゼントは子どもに直接お渡しするようにしています。

Ⅳ）いざ訪問！

2024.1 月現在で 38 世帯 74 名の子ども達がこのプロジェクトを利用しています。
訪問員が月 1 回プレゼントをお持ちし、子ども達やそのご家族と顔を合わせます。
そしてたくさんの会話ができる関係をつくり、相談事を聞くことによって、確かな繋がりをつくっていきます。
その中で、子どもや家庭に潜在する課題を発見し、必要性があれば支援に繋げることができます。
子どもを取り巻く家庭環境を含む包括的な支援となります。

公民連携で確かな仕組みに

北区繋がり広がるプロジェクトは、「北区政策提案協働事業」に採択され、**2024 年 4 月からは官民連携の形で実施していくプロジェクト**となります。

これによって本プロジェクトが孤独・孤立対策やアウトリーチ型支援の確かな仕組みとなる新たなフェーズに入っていけると感じています。

国も「孤独・孤立対策推進法」に、令和 6 年 4 月 1 日より施行の流れとなりました。この孤独・孤立対策推進法の基本方針には、

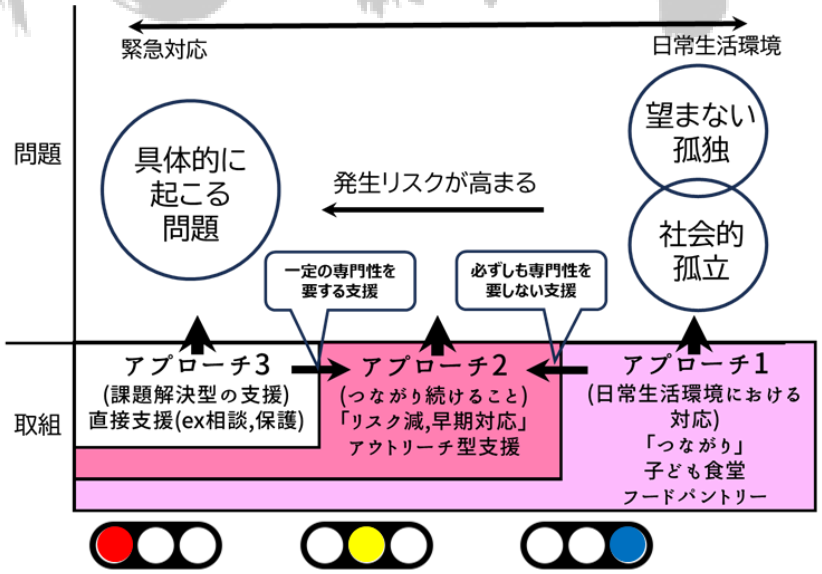
・人と人のつながりを実感できる地域づくりとして、「アウトリーチ型支援」を進めていくこと
・公民連携・官民連携の基盤となるプラットフォームをつくること　が、明記されています。

右記の図は、「孤独・孤立の問題とそのアプローチ」をまとめたものです。アプローチ 1 として、子ども食堂やフードパントリーなど拠点型支援による日常生活環境における対応があります。その中からアプローチ 2 として繋がり続けることが必要な方に対して、アウトリーチ型支援を行います。

ここまでは、民間団体が行う必ずしも専門性を要しない支援でありますが、それ以降は専門性を要する行政支援となります。

地域全体の包括的な相談支援体制を構築するにあたり、我々民間団体は、日常生活環境における支援として、継続的に繋がる機能を強化していくための役割の一端を担うものです。行政と民間の役割分担を捉えながら、互いに信頼して取り組んでいきます。

□「孤独・孤立」に対する問題とアプローチの図



また、我々SHOIN は、孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの、孤独・孤立対策に取り組む団体として内閣府 HP に紹介されています。

孤独・孤立対策
官民連携プラットフォーム
わたしたちは、孤独・孤立対策に係る取組、
又は活動への協力や支援をしております。

訪問員の声

Q. 訪問員になっていただいた理由をお教えください。

・運営している子ども食堂に来ている気になるご家庭、シングル家庭へのサポートを強化したかった。
・関わりたいと思っていたご家庭や関わり頻度を高めたいと思っていたご家庭とのツールが欲しかった。
・子ども食堂をやっていて、子ども達の家庭での現状などを聞いたりし、保護者が気軽に相談できる相手が必要だと思って参加しました。

Q. 訪問を通じてのエピソードをお教えください。

・シングルファザーのご家庭が、別のシングルファザーのご家庭を紹介してくれました。
・子ども食堂では配食が続いていたため、少し気になるご家庭と関わる間隔が開いていました。そんな時、プレゼントをお届けする機会があり、あるご家庭の生活状況を知ることができました。訪問の電話をすると、その家庭のお子さんが 40 度の発熱とのことでした(翌日にコロナ陽性が判明)。カステラのプレゼントの他に、差し入れで清涼飲料水やインスタントスープなどを購入して訪問しました。
翌日も連絡をすると、子どもは解熱し、元気になって困ると冗談半分にこぼしていました。この活動は子ども食堂などの定例活動を補完する意味でもありがたいと思います。

Q. あなたが感じる本プロジェクトの必要性や意義をお教えください。

・自宅や電話番号を把握することで、何かあった時に本当に助けになれることに意義を感じます。
・家庭と繋がるためには、様々なきっかけや多方面からのアプローチがある方がよいと感じます。この活動はまさにその一つです。
・行政などに対しては、敷居が高く SOS を気軽に出せないが、このプロジェクトによって信頼関係を築くことにより、普段の会話の中で困り事を引き出すことができたり、子ども達からも家庭の状況を聞けるのでとても社会的に必要なプロジェクトです。

Q. 本プロジェクトが、今後どのようになっていくことが望ましいと思いますか？

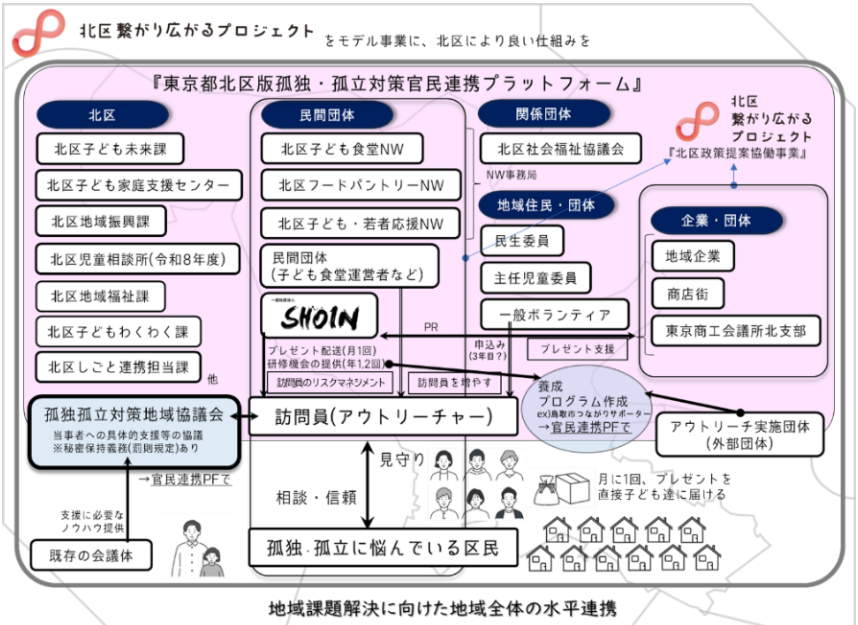
・困りごとを抱えた子どもの家庭への支援を開始するきっかけにできればと思います。支援側としてはそのようなアプローチがあるのは、とてもありがたいと思います。
・支援が必要な家庭があった時に、スムーズに行政機関に繋げたり、保護が必要な場合のシェルターなど、即時対応ができるように、行政とも連携して直ぐに支援できる体制となっていくことが望ましいです。

将来のビジョン

将来的には、孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを設立した上で、孤独・孤立対策地域協議会にて、当事者等支援を行う関係者で構成した協議会の中で、情報交換や具体的な支援内容について協議できる場所を設けることを目指します。

それによって、支援対象者と訪問員だけで悩みを抱えることなく、地域の確かな仕組みとして、「誰ひとり取り残さない社会」、「相互に支え合い、人と人とのつながりが生まれる社会」に実現するものと考えます。

□東京都北区版孤独・孤立官民連携プラットフォームポンチ図



ご支援のお願い

「他人事」と感じていたことが、徐々に「自分事」に変わり、

徐々に「自分事の範囲」を拡げていく

貧困や孤立は、その家庭だけの問題ではありません。地域の人々が社会課題と捉えていただき、自分事にすることから行動をはじめていただければ嬉しい限りです。

北区繋がり広がるプロジェクトにご参加ください

我々の活動、特に行政の補助がないアウトリーチ型支援について、金銭または物品(商品・食品)でのご支援を受け付けております。

北区繋がり広がるプロジェクトを継続する上で、企業・団体様より、月毎のプレゼントを購入するための金銭やプレゼントとなる物品、食品や商品などのご支援のご協力をお願いしております。

ご支援いただいた方は、本プロジェクトホームページ上にバナーを貼らせていただきご紹介させていただいております。

［振込先］りそな銀行　王子支店　普通　１８８８８８７　(社)ＳＨＯＩＮ

□北区繋がり広がるプロジェクトホームページ

社会課題として

■ 持続可能な開発目標(SDGs)にコミット

国連が定めた 2030 年までの目標は国際機関、NPO のみならず企業や市民団体も包括されています。国連が掲げる持続可能な開発目標として「誰一人取り残さない世界の実現」を目指します。

■ 企業の社会的責任(CSR)として

企業の事業活動を通じ、本プロジェクトに参加していただき、企業の CSR として一緒に活動していただくこともちろん可能です。

■ 渋沢栄一の想いを繋ぐ

北区に大変ゆかりのある渋沢栄一翁も日本の資本主義の発展に大いに貢献しただけでなく、慈善事業にも積極的に取り組んでいました。現在の社会福祉法人社会福祉協議会や全国民生委員児童委員連合会の初代会長も渋沢栄一翁でした。福祉分野の発展は、企業・経済団体の関わりが必要不可欠です。

近年ご支援いただいただ皆様

池田様　東京商工会議所 北支部　片桐貴金属工業株式会社

国際ロータリー第2580地区 東京王子ロータリークラブ　ANES アネス株式会社　Nadalles http://www.jtnnal.co.jp

SHOIN

【本部】　〒114-0001 東京都北区東十条 5-5-3
【事務所】〒114-0022 東京都北区王子本町 2-15-19
携帯　080-9269-5525
FAX　03-6903-8247
HP　https://shoin-tokyo.com/
e-mail　shoin.shoin.2020@gmail.com